

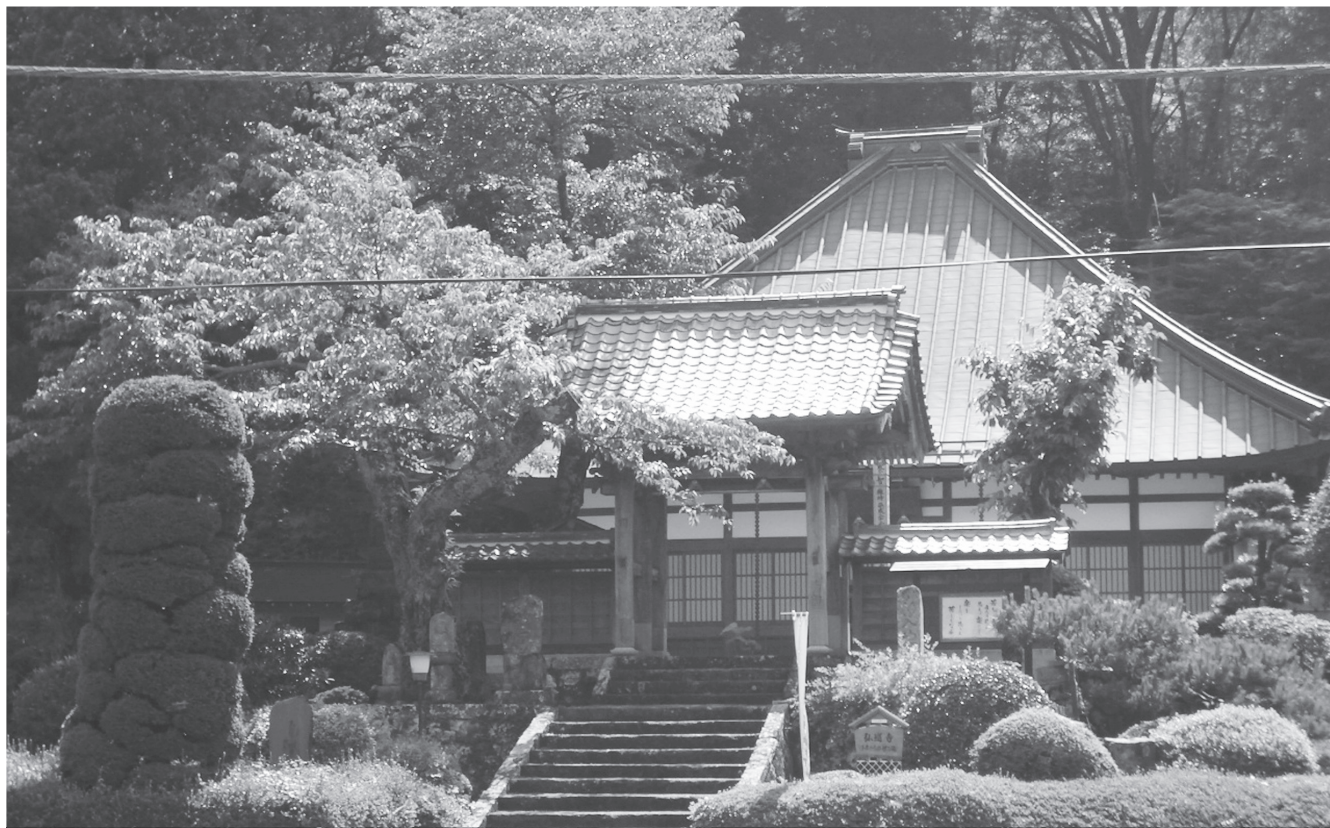


伊豆市

議会だより

No.25

発行:伊豆市議会 <http://www.city.izu.shizuoka.jp> 編集:議会報編集特別委員会
〒410-2413 静岡県伊豆市小立野38-2 TEL 0558-72-9906 **2010.8.1発行**



1856年(安政3)、タウンゼント・ハリスは初代駐日米国総領事として赴任、下田に来航。その目的は、ペリーが果たせなかった日本との通商を結ぶことでした。翌1857年(安政4)10月、将軍家定に拝謁するため下田を出発したハリス一行は、途中、湯ヶ島の弘道寺に宿泊。その時に使用された「亜米理加使節泊」の看板と床几(しょうぎ-折りたたみ式腰掛け)は、市の指定文化財になっています。

「伊豆市湯ヶ島 弘道寺」

目次 CONTENTS

- 6月定例会の概要 2
- 継続審査の経過と結果 3
- 行財政改革特別委員会報告 4
- 委員会審査 5
- 一般質問 6
- 決議 11
- 9月定例会の予定 12

一般会計総額が143億3,700万円になりました

平成22年
6月定例会

平成22年6月定例会が6月11日から25日までの会期（15日間）で開かれ、報告9件、補正予算3件、条例の一部改正7件、その他6件、工事請負契約の変更1件を原案のとおり可決し、人事関係1件の推薦に同意しました。

また、3月定例会で継続審査となった「伊豆市立学校設置条例の一部改正について」は、可決されました。（詳細は次頁）



報告

- 平成21年度伊豆市一般会計予算の継続費繰越の報告
- 平成21年度伊豆市一般会計予算の繰越明許費の報告
- 平成21年度伊豆市農業集落排水事業特別会計予算の繰越明許費の報告
- 平成21年度伊豆市上水道事業会計予算の繰越の報告
- 専決処分報告（施設管理事故関係2件、交通事故関係3件）

補正予算

- 平成22年度伊豆市一般会計補正予算（第1回）
- 中伊豆地区小学校再編に向けた学校施設の工事、天城中学校技術科棟耐震補強工事の増額、農業集

落排水事業特別会計への繰出しなど、歳入・歳出それぞれ1億6100万円を増額する内容。

- 平成22年度伊豆市国民健康保険特別会計補正予算（第1回）
- 老人保健医療費拠出金の精算額確定に伴うもので、歳入・歳出それぞれ98万円を増額する内容。
- 平成22年度伊豆市農業集落排水事業特別会計補正予算（第1回）
- 加殿処理場施設改良工事に伴う増額補正で、歳入・歳出それぞれ1470万円を増額する内容。

条例の一部改正

- 伊豆市職員の給与に関する条例の一部改正
 - 伊豆市職員の育児休業等に関する条例の一部改正
 - 伊豆市職員の勤務時間、休暇等に関する条例の一部改正
 - 伊豆市国民健康保険条例の一部改正
 - 伊豆市天城温泉会館条例の一部を改正する条例の一部改正
 - 伊豆市運動施設条例の一部改正
- 市有地として、八幡グラウンドを有効活用することを目指すもの。
- 伊豆市消防団員等公務災害補償

条例の一部改正

その他

- 専決処分の報告およびその承認（条例の一部改正）
- 専決処分の報告およびその承認（21年度一般会計補正予算）
- 静岡地方滞納整理機構を組織する地方公共団体の数の減少
- 静岡県後期高齢者医療広域連合を組織する地方公共団体の数の減少
- 市道路線の変更
- 建設工事委託に関する協定の締結

契約の変更

- 工事請負契約の変更
- 修善寺南小学校屋内運動場建築工事において、2074万8千円増額するもの。

人事関係

- 人権擁護委員候補者の推薦
- 任期満了に伴い、浅見忠利氏（土肥）と佐藤傳氏（八木沢）が候補者となることに同意。
- 任期は、平成22年10月1日から3年間。両氏とも再任。

「学校設置条例」 継続審査の経過と結果

本年3月定例会に提出され、総務教育委員会にて「継続審査」となっていました「伊豆市立学校設置条例の一部改正について」の審査経過と結果をお知らせします。

この改正は、中伊豆地区の大東・八岳・大見の3小学校を1校に再編し、「中伊豆小学校」とするものです。

総務教育委員会では、教育委員会へ出席を求め、審査会を開催。また、中伊豆地区小学校再編成準備委員会や、各学区で行われた説明会を傍聴し、地域や保護者の不安・要望、あるいは児童が安全に通学できるのか等、審査しました。

審査における質疑の主なものは次のとおりです。

問 この再編に対し、やむを得ないという意見を含め、何%位の賛成があるかとみているのか。

答 はっきりした数字は持っていませんが、70%は賛成と見込んでいます。したがって、事を急ぎ過ぎとの指摘もありましたが進めてきました。

問 通学路の安全性についてどう考えているか。

答 準備委員会でも通学路の点検をすることになっていきますし、安全確保に努めていきます。

問 日が短い時期の帰宅は、暗くて不安である。

特に、姫之湯地区は、帰宅用バスも地区内を通らないようだが、どのように考えているか。

答 防犯灯は、担当課と協議し、設置していきます。

八岳地区の帰宅用のバスですが、15時52分大見小発篠場新田行きは、原保から貴僧坊を経由し、篠場新田まで行き、八幡まで同じルートに戻ってくるのですが、篠場新田から戻ってくる時のルートは、貴僧坊から姫之湯を経由し、戸倉野へ出るルートに変更します。

問 各学校で独自に実施しているカリキュラムや活動—例えば、八岳小の金管バンドや一輪車、大東小の野鳥観察や漢字検定は、再編後はどうなるのか。

答 現在は、総合的な学習の部分で活動しているものもありますので、今後は、クラブ活動という形で、子供たちの希望も聞きながら、全体の中で考えていきます。

問 学校から2km歩かせることは良いと思うが、バス停からは別ではないか。

例えば、バス停から自宅までの距離が1.5kmの低学年の子供が7時10分のバスに乗るには、6時30分ころ家を出なければならぬ。子供を送り出すために、親は何時に起きるのか。自宅から1kmでも1.5kmでも、親はバス停まで送らなければならぬ。

この問題は、複数の制度が必要だと思うが、いかがか。
答 確かに一つの制度では無理だと思いますので、再検討させていただきます。

以上、審査の後、反対と賛成の討論がありました。

●反対討論

多くの課題を今後へ持ち越している。短期間での再編では、住民の意思は全く無視され、小規模校のメリット・デメリットも十分調査・研究されていない。これが本当に子供たち、あるいは親のためになるとは、とても思えない。

●賛成討論

継続審査中、中伊豆地区のすべての説明会に出席し感じたことは、再編に向けていろいろ課題はあるが、再編やむなしが大勢だと感じたので、今回は賛成すべきだと思う。

討論に続いて行われた採決では、賛成多数となり、委員会としては可決すべきとなりました。

そして本会議最終日、総務教育委員長より委員会審査について報告があり、委員長に対する質疑が行われ、反対・賛成の討論を経て採決が行われた結果、「伊豆市立学校設置条例の一部改正について」は、賛成多数で可決されました。

来年4月、新たに「中伊豆小学校」が開校することになります。

「伊豆市行財政改革に 関する報告書」 行財政改革特別委員会

平成21年3月議会において、行財政改革特別委員会が設置され、4月6日から計17回開催しました。

限られた時間でしたが9項目を掲げ、精力的に調査・審議してきました。

行財政運営の改善を進めることは、市民に対して最適な行政サービスの提供に繋がると考えたからです。

行政側が進めてきた集中改革プランも、平成21年度で5年間の計画が終わり、その総合的な評価の発表が待たれますが、すばらしい構想や戦略があっても、それを具体的に反映し、行政活動に展開しなければ成果を実現することはできません。

市民満足度の向上を深める取り組みを行うよう要望し、報告いたします。

人件費の適正化と効率化について

(一) 改革案の背景

1. 一般会計の特徴について
2. 一般会計に於ける人件費の比率と適正化について
3. 人員削減の実績と問題点について

(二) 人件費の適正化と職務合理化・効率化

1. 定員管理の適正化と諸手当の見直しについて
2. 行政機構の更なる見直しについて
3. 適材適所配置による事務の合理化・効率化について
4. 職員能力アップ、多能化について

入札改革について

1. 入札制度の適正化
2. 随意契約の運用審査等のルール化
3. 市内業者の保護対策

補助金のあり方について

各種団体の成長と共に市全体の利益、また個々の市民にとっては生活の向上に結びつくものでなければならぬ。従って、審査委員

会を早急に設置すると共に一般市民も参加する組織にすべきである。

遊休市有地の活用と賃貸借料基準価格の適正化について

1. 遊休市有地の活用
2. 賃貸借料基準価格の適正化

審議会の情報公開について

原則として審議会を公開性にするとともに、会議の結果についても審議経過が十分理解できるように速やかに公表するよう基準を制定する等、早急に検討されたい。

指定管理者（民間委託）について

12の施設について調査・検討しました。

「議会報告会」の実施について

議会基本条例などの研究も含め議会改革を検討する必要がある。

全協・議連のあり方について

1. 全員協議会の改善
2. 議会運営委員会の改善

政務調査費等の検討について

政務調査費は、議員活動の充実

並びに議員の政策立案能力の向上を図るために必要不可欠と考え、政務調査費の確保を提案する。

以上の検討項目について、10ページの報告書にまとめました。

委員長所見 行財政改革は、限られた税金をいかに効果があるように使うか、市民サービスを維持して行くかにかかります。

伊豆市の産業構造、人口推移、財政力などを考えたとき、行財政改革はスピードを上げて進め、全職員参画による日常的改革が大切です。また、市民の支持を得るなか、行政も「民間を越える経営」の実践が求められています。

いまも真剣になって、予算のあり方、扱い方を改め、「事業仕分け」でふるいにかけて予算の有効活用を精査しています。

経済状況に改善がみられず、国や地方自治体は税収が減少のため、財政は逼迫し危機的な状況になっています。

このような時に交付金に頼らないビジョンを示してもらいたいと思います。



委員会の議案審査で
次のような質疑がありました

総務教育委員会

◆22年度伊豆市一般会計補正予算
(第1回)

問 大見小学校の校舎増築工事を今回の補正で行う理由は。

答 再編により現在の校舎だけでは手狭になるため、プレハブを設置し、職員室などを移す計画でした。

しかし、新しい学校としてプレハブが適切かどうかなどを検討した結果、軽量鉄骨での増築をお願いすることにしました。
3月までに、もっと検討すべきだったと反省しています。

◆伊豆市運動施設条例の一部改正

問 八幡グラウンドを普通財産にすることについて、企業が利用したいという場合に、市は前向き

に考えるのか。

答 企業などが使う場合には、周辺の方々の不安や心配が出ないような条件を付けていきます。

また、職場の確保など、地域に有益になるように、配慮したいと思います。

◆工事請負契約の変更

問 修善寺南小学校体育館横の石垣工事や立ち木の処分は、予算があつたから追加した工事か。

答 必要に応じて実施した工事であり、ご指摘のようなことはありませんが、予算執行に不適切な点があつたことを、深く反省しています。

福祉環境委員会

◆22年度伊豆市一般会計補正予算
(第1回)

問 軽自動車税システムになぜ県の滞納整理機構がかかわるのか。業務が違うのではないか。

答 県で税一元化の検討がされ、滞納整理機構が設立されましたが、他に一元化はできないかと検討し

た結果、軽自動車税も可能とのこととで、今回システムの改修をするものです。

登録、廃止等の手続きや、納税方法に変更はありません。

◆伊豆市国民健康保険条例の一部改正

問 4月からの改正としなかった理由はなにか。

答 法律の施行は22年度からです。伊豆市の国民健康保険税の納期は7月からなので、6月定例会で間に合うと判断しました。

経済建設委員会

◆22年度伊豆市一般会計補正予算
(第1回)

問 産業経済アドバイザーを迎えた場合、職員との連携や実行する体制はあるか。

答 企業誘致等の指導・助言ができる人材の確保が目的ですので、観光経済部にて職員と一緒に業務をしてみたいです。

市役所内の企画力が充実するよう、教育的なものも含めてお願い

するつもりです。

職員体制は、2、3年以内に整えたいと思います。

問 森の恵み首都圏オープン講座委託料の内容は。

答 10月に平塚市で行われるイベントで、わさび作り体験や食体験など、「森の恵みのまるごと体験コーナー」にて、市の特産品をPRするものです。

商工会、漁協、農協、観光協会などを通して募集をかけ、PR隊を編成したいと考えています。

市への誘客にもつなげたいと思いますし、間に合えば、シカ肉もPRしたいと思っています。

◆22年度伊豆市農業集落排水事業
特別会計補正予算(第1回)

問 加殿処理場の改良工事について、最初から見積もることはできなかったのか。

答 沈殿槽は、当初の調査では大丈夫と判断しました。しかし、最終調査にて、費用の面からも、今補修することが効率的であると判断しました。

市政を問う

～ 一般質問 ～

6月定例会での一般質問は、6月14日、15日の2日間、15名の議員が43件について行いました。質問と答弁を要約してお知らせします。(質問順)

質問

湯川橋の架け替えについて

(室野 英子議員)

湯川橋の老朽化による架け替えが必要となり、本年度より橋と路線の基本設計の段階に入りました。

- ① 湯川橋の基本設計
 - ② 国道136号の出入口改良
 - ③ 湯川橋周辺整備
- 市の見解を伺います。

市長 答

「伊豆の踊り子」に関連した整備も行いたい

基本設計としては、幅員12メートル2車線の橋脚で、両側に歩道がきます。高さは、今の道路から小立野側で30cm、横瀬側で150cm上がり、少し傾斜がきます。湯川橋は、「伊豆の踊り子」の舞台のひとつにもなりましたので、踊り子に関連したポケットパークも整備したいと考えています。



質問

介護報酬不正請求の経過について

(鈴木 初司議員)

① 債権の回収状況はどのようになっているか。
② 未納の返還金の調定と事務処理についてどのように行ったのか。

- ③ 監査委員に報告すると言ったが、経過報告の説明を求めます。
- ④ 事業者へ対して法的処分はどのように考えているか。
- ⑤ 行政当局の責任の取り方を伺います。
- ⑥ 市民への説明責任はどのように果たされましたか。

市長 答

債権の回収に全力を尽くします

- ① 介護報酬返還請求額約3722万円のうち、約53万円が市へ返還されました。
- ② 返還未納額は、平成21年度介護保険特別会計の中に調定計上しました。
- ③ 監査委員へ平成22年4月に報告しました。
- ④ 事業者に対しての法的措置は、介護報酬返還訴訟および、刑事告発を考えています。
- ⑤ 現時点での責任の取り方は、債権の回収に全力を尽くすことだと考えています。
- ⑥ 市民への説明は、広報等で行っています。

質問 税収納未済の対策について

(梅原 泰嗣議員)

市民税は行政サービスを行う大切な財源であり、今後、財政歳入の約30%を占める地方交付税が先細りになる状況等を考慮すると、税未納に特別な対策が必要と考えます。

そこで、市職員が該当者宅を訪問し、納税の相談に応じる等、収税の外勤専門組織「特別徴収部署」を立ち上げ、未納・滞納税の積極的な収納を行う対策が必要と考えますが、如何でしょうか。

長井市答 税負担の公平性の認識と、法令の規定を遵守

納税者の公平性の確保に努めます。滞納者には、まず督促や催告、次に囑託徴収員による訪問徴収や、職員による一斉個別訪問を行っています。それでも納付しない場合には、さらに催告等を繰り返し、最終的な手段として、不動産や預金の差し押さえ等の滞納処分を行っています。

また、特別なチームを作ることを否定しませんが、今、大きなものは、県の滞納整理機構を進めています。市で行う場合には、どのような知識を持った人が何人必要かなど、少し時間をかけて検討していきます。

質問 修善寺駅周辺整備について

(森島 吉文議員)

大目標として、伊豆の玄関口にふさわしい『訪れやすく住みやすい』誇りあふれる修善寺。計画として駐車場の整備、南北通路の新設等による利便性の向上、機能強化等々ありますが、整備による高い費用対効果、商店街の活性化、利用客数の推移など、修善寺駅が伊豆市、伊豆地域のハブ駅となりうるのか伺います。

*ハブ駅とは、各地に放射状に伸びた路線網の中心として機能する「拠点駅」のこと。

長井市答 利用者の満足度を高めることが大切です

整備目標を、駅周辺の利便性の向上、賑わい空間の創出、安心・安全空間の創出、伊豆の風情の創出として、事業効果を市民の満足度に考えています。アンケート調査では、利便性と賑わい度については、現状が良いとの回答は2・4%、否定的な回答が82・3%で、現在の修善寺駅に不満感を持っています。

修善寺駅の乗降者は、21年度で87万人ですが、26年度には百万人まで増やす目標設定です。伊豆箱根バス、中伊豆東海バスが15定期路線で公共交通機関のハブであると考えます。

質問 学校再編後の検証について

(内田 勝行議員)

現在、土肥地区を皮切りに再編が進んでいます。再編の原点は、少子化による教育環境の著しい変化を是正することだと考えます。

再編は、ゴールではなくスタートです。その観点から、再編後の具体的効果を検証・精査し、今後実施される3地区の再編に活用していくことが重要だと考えますが、如何ですか。

長井市答 あらゆる方向からの検証を考えています

再編後の検証は重要だと思います。しかし、短期間で結果を見出す事は難しいこともあります。今考えていることは、アンケートや学力診断テストなどによる検証です。

アンケートでは、児童数が増えたことによる人間関係や仲間づくり、学習への取り組み状況等を、児童や保護者を対象に実施してみたいと考えています。

また、PTAや地域代表者による学校評価委員からも、意見を伺いたいと考えています。

質問

消防団員の確保について

(飯田 正志議員)

我が伊豆市では、人口の減少や若者の流出に伴い、年々、消防団に入団する方がいなくなり、地域を守る力が失われつつあるように思います。

消防団について、どのように維持していくのか。団員の待遇改善も含めてお聞かせ願いたい。

長弁
市答団員数の確保に向けて、
対策を検討中です

団員数の減少に憂慮しています。

地区役員や自主防災会と相談しながら、団員確保をはかっています。

団員の待遇改善も今まで実施してきましたが、今後も可能な限り進めていきます。



質問

市民アンケート調査結果に如何に答えますか

(稲葉 紀男議員)

伊豆市民の住みよさ感や市への愛着度は低下し、また、近隣に比べ低い。何故でしょうか。

重要と考える項目では医療の充実、生活道路の整備、地震・台風対策、老後の経済的心配など、現実の生活に密着した項目が、駅や港の整備、公園や広場の整備等、将来への投資的項目の上にある。この事を市政に如何に反映させるのか。

長弁
市答総合計画を進める上で
の参考にします

市民アンケートは、今後の計画を策定する上での参考資料と位置づけています。

伊豆市への住みよさ、地域への愛着ですが、年代が若くなるに従い下がる傾向にあります。今後は、若者や働き盛りの年代を対象とする施策の展開も必要と考えます。

満足度、重要度については、安心、安全、利便性の向上は当然と考えます。商店街や中小企業への支援の充実も必要と思います。

最大の問題点は、雇用の場。そして、2番目が市内の公共交通だと思えます。そのため、総合計画を進めていくつもりです。

質問

老人憩いの家

(森 良雄議員)

熊坂にある「老人憩いの家」が有料化されました。老人憩いの家とはどんな施設ですか。老人憩いの家についての市長の考えを伺います。

有料化により、利用状況に変化がありましたか。利用促進、サービスの向上をはかる考えはありますか。



▲修善寺 老人憩いの家(熊坂)

長弁
市答利用促進をお願いし、
意見をいただく予定です

まず定義づけですが、これは国の業務ですので、「設置運営について」の通知が出されており、「老人の心身の健康の増進を図ることを目的とする」とあります。

利用状況は、会議室・入浴施設等の利用が、4月は1712人で、昨年同月3015人の44%減。5月は1465人で、前年同月2980人の51%減となっています。

無料などの優遇策の状況は、4月が3団体149人、5月が6団体117人です。

今後は、利用促進をお願いすると共に、皆様からのご意見をいただくつもりです。

質問

『序列化教育』 発想の学
校再編成は見直しを

(木村 建一議員)

教育委員会は、学校再編成の根拠に「クラス替えのない学校は、教育上大きな問題」をあげていますが、学級の数が問題なのではなく、順序を子どもの人格の優劣にまで及ぼせようとする『序列化教育』が問題なのではありませんか。

序列化教育発想の再編成は、見直すべきです。

長弁
教育
解答

固定化した人間関係を
解消できる環境が大切

一人一人の能力や個性が違うので、序列化がなくなるのは難しいと思います。固定化した人間関係や意識が解消できる環境が大切であると考えます。小集団での序列化の固定化による、いじめや不登校などの環境を改善できるようにと思います。

また、複数学級では、人間関係がより多様になり、クラス替えで人間関係がある程度リセットされ、再スタートの機会が与えられます。小集団では、劣等感を持つたり、自尊心が育ちにくい環境になるのではと思います。

質問

国道136号、通り崎
前後の整備について

(松本 覺議員)

①カーフェリー入口より南への400mは幅員が狭く急カーブですが、ここだけ歩道がついていません。小中高校生の通学路として、観光施設として、安全面からも歩道の建設が急務ですが対応は。

②サンセットブリッジと旧道との遊休地の公園化の進捗状況は。

③橋建設に伴い、陸路から海への道が閉ざされたままです。現況に戻すとの地元との約束がありますが対応策は。

長弁
市答

市民の安全の確保が図れる
よう、整備していきます

①県土木事務所に対し、「国道136号土肥地区歩道設置要望」をお願いしてきました。早期完成に向け、さらなる要望をしていきます。

②敷地造成工事、排水工事、電線・管路工事等は、県事業により21年度に実施済みです。23年度に県による北側駐車場の整備が計画されているので、市事業の公園工事を県と同時に施工するよう、準備をしています。

③釣り人や海水浴客の事故が多く、安全性を考えると、現時点で整備することは慎重に考えざるを得ないと判断しています。

質問

10年後、市部の最低所得から脱却できるか

(関 邦夫議員)

県知事も市長も、伊豆は発展の魅力に満ちているとの認識ですが、誰の責任で県下市部の最低所得に甘んじているのか。市民の低所得に対して、どのように考えているのか。

今掲げている事業で、伊豆市の未来が開けるとは到底考えられません。今後、財源確保をどのようにするのか、具体的にお答え願います。

長弁
市答

市の魅力を産業振興に
結びつける努力を

確かに、伊豆半島・伊豆市は、魅力と潜在的な可能性に満ちています。ただ、現状は大変厳しい状況です。誰の責任かと言いますと、残念ながら私を含む、我々市民の責任であると思います。

したがって、我々が持つ、潜在的な魅力と可能性をビジネス化できる人材を、外部から招きたいと思っています。

なるべく早く、すぐにできること・中期的なこと・長期的なことを区分して、できることは速やかに産業振興に結びつける努力をしていきたいと思います。

質問

伊豆総合高校通学路の
安全対策を強化すべき

(杉山 誠議員)

伊豆総合高校の通学路は、人家の無い区間が長く、また、古川橋南側の横断歩道付近の照明が暗くて、危険性を指摘する声が聞かれます。4月からは多くの女子生徒が通うようになり、クラブ活動などで日が暮れてから下校する生徒も大勢います。防犯灯などの安全対策を強化する必要があるが、いかがでしょうか。



▲古川沿いの通学路

長井市
歩道灯や街路灯の設置
をしていきます

安全対策として、高校下の人家のない川沿いにLED製の歩道灯を設置し、安全確保を図りました。必要があれば増設することも考えています。

今後学校、PTA、県などと協議の上で、犯罪の未然防止や、通学時の安全対策を強化していきたいと思っています。

また、県道熱海大仁線の横断歩道については、県土木事務所に街路灯の設置を要望しました。県で対応してもらえなければ、別の策を模索していきたいと考えています。

質問

水道料値上げ等の施策は、
人口が減少しないのか

(西島 信也議員)

市長は、「人口減少に歯止めをかけるため、伊豆市のあらゆる資源と努力を傾注し、そのための計画を策定する。」と言っているが、「水道料値上げ」、「ごみ処理手数料の徴収」、「老人憩いの家の有料化」、「学校再編成」等の諸施策は、人口減少を加速させていないか。これらの施策が人口減少に歯止めをかけることができると言うのなら、例などをあげて説明いただきたい。

長井市
良い学校は、人口対策
のためにも大切

学校再編により、地域の問題、人口減少も含めいろいろなデメリットがあるのは認めますが、今はその議論ではなく、教育の議論をしていただきたい。

今の子供たちに犠牲を強いるようなことは、してはならないと思います。

通学の問題はありますが、再編の結果できる2クラス、あるいは1クラスでも30人の学校と今の学校と、通学以外でどこが今の学校のほうがいいのかを議論していただきたいと考えています。

質問

学校再編成に関して

(大川 孝議員)

学校再編成は、革命的な改革事業のために、十分な説明責任が求められます。今まで天城地区の方々には、何回説明をしてきましたか。通学距離が遠く、児童に10km以上を強いるのは、精神的、体力的に負担が重過ぎます。3校の維持が理想ですが、市民に最適な行政サービスの提供を考えると、1校にするのではなく、2校で運営をすべきです。

長井市
今後、検討委員会等に
て検討していく

天城地区の学校再編成についての説明会は、概要説明会と懇談会形式の説明会と、2回実施しました。学校再編成の判断基準として、複式授業の解消、複数学級によるクラス替え効果など、より良い学習環境をつくることだと考えています。

教育委員会における基本計画では、天城地区の学校数は1校ですが、場所については、まだ決めていません。

具体的には、通学手段等も含め、検討委員会、準備委員会等で検討していきたいと考えています。

質問

菊地市政の二年間について

(三須 重治議員)

一、庁内シンクタンクを設置し、元気なまちをつくる。と出発したが、十分機能していると思えない。

一、駅舎や港といった玄関へ投資するより、市内の眠れる宝へ投資すべきではないか。

一、学校が消え若者が消えれば、地域は衰退する。その選択は、住民が決めることではないか。

一、市の事業は、もつとコスト意識を持つべき。坪43万円の建物を民有地へ建設する食肉加工センターは、最たるものだ。

市長 長井 今後、ふるさとが元気になる行政に取り組みます

市役所が唯一最大のシンクタンクと考えています。若い職員による企画例もあり、将来に向けて期待しています。

観光振興は、伊豆市の魅力、比較優位性等を考慮し、将来的にも色あせない地域づくりに着手する考えです。

学校再編成は、人口減少に歯止めをかけるためでもあり、包括的な産業政策も必要と判断しています。

食肉加工センターは、捕獲のタイミング等で処理が重なる事も考慮し、必要な処理能力を有した施設を考えています。

決 議

「子宮頸がん予防ワクチン接種費用の公費助成を求める決議」を採択し、市長に提出しました

1. 子宮頸がん予防ワクチン接種費用に対する公費助成を行うこと
2. 乳がん・子宮頸がん検診無料クーポン券配布事業の来年度以降の継続と、検診受診率向上に積極的に努めること

「伊豆市議会改革検討委員会設置に関する決議」を採択し、代表委員を選任しました

地域民主主義を実現するための伊豆市議会の議会改革等に関する調査研究を行うことを目的として、全議員を委員とした「伊豆市議会改革検討委員会」を設置しました。

調査期限は1年以内とし、調査事項や進め方の案については、代表委員会にて作成することとなりました。代表委員は、各常任委員会より2人ずつ選出されています。

代表委員会（6人） ◎委員長 木村建一 ○副委員長 古見梅子
鈴木初司 梅原泰嗣 森島吉文 内田勝行

議会傍聴と視聴のお知らせ

傍聴

本会議はどなたでも傍聴することができます。
当日、直接お越しください。

本庁にエレベーターも設置され、また、車椅子のまま傍聴できるスペースもあります。

なお、席に限りがありますので、団体の場合は、事前に議会事務局までご連絡ください。

(☎ 0558-72-9906)

視聴

6月定例会から、本会議の様子がインターネットによる生中継で配信されています。



また、録画による配信も今までどおり行っていますので、市のホームページからご覧ください。

9月の定例会の予定は、下記のとおりです。詳細につきましては、お問合せください。

9月定例会の予定	
場 所	時 間
本庁2階 議場	午前9時30分～
9月1日(水)	議案上程 提案理由説明
7日(火)	一般質問
8日(水)	一般質問
10日(金)	議案質疑
15日(金)	常任委員会 委員長報告
24日(金)	質疑・討論・採決

※変更となる場合がありますので
ご承知ください。

常任委員会報告

－閉会中の活動－

5月6日 「総務教育委員会 審査会」

中伊豆地区小学校再編成に関する意見交換を教育委員会と行いました。

10日 「福祉環境委員会 衛生施設視察」

市では、し尿処理施設の建設を予定しているため、近隣の新しい施設を視察しました。



▲西豆衛生プラント

11日 「経済建設委員会」

建設部と県沼津土木事務所から、今年度の事業について、概要説明を受けました。

19日 「福祉環境委員会」

し尿処理施設の視察について、環境衛生課との意見交換などを行いました。

編集後記

「修善寺温泉の景観を守る」と、地元が行動を起こした」という新聞記事を見ました。まち並みをそろえ、景観を統一し、観光客を誘致し、歴史あるまちを後世に残すという計画だと思います。補助金ばかりに頼らず、企業努力、住民努力の時代が新たにスタートしたと絶賛いたします。

観光産業は伊豆市の要ですが、平成18年度に百万人程あった宿泊客が、昨年度は75万人、今年度は65万人に減ってしまうのではと、危惧されています。

市役所、議会、企業の努力、住民パワーとで、何とかこの伊豆市の危機を乗り越えなければなりません。

伊豆市で増えているのは有害鳥獣の鹿だけなんて、洒落にもなりません。

編集委員 森島 吉文